

ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験 ~ 『土湯の森』の自然再生に向けて ~

最上峡周辺では数年前からカシノナガキクイムシによるナラ枯れが発生していましたが、今年は旧最上川スキー場の周辺でも多くの被害が見られるようになりました。

このため、「土湯の森づくり」では当初の計画を変更して被害木の処理を11月14日(土)に実施しました。

当日は、あいにくの雨空と新型インフルエンザの影響もあったため、期待していた子供たちの参加も得られませんでした。地域の方を中心に18名の参加者が集まってくれました。

カシナガの幼虫は枯れた木の中で成長し、翌年の夏に羽化していくことで、さらに被害を拡大させていきます。



被害木の伐倒



カシナガの幼虫

また、このカシナガは被害木の根元に近いところに多く生息するため、地際近くでは大量の木屑(フラス)が見られる特徴があります。

今回の取り組みは、このカシナガが住み家としている被害木を伐倒し、さらに短尺に処理することで材を乾燥させ駆除するものです。

作業方法を説明した後、被害木の太いものは最上広域森林組合のプロがチェーンソーを使って伐倒し、その他を

残りの参加者が手ノコで処理しました。

手ノコは細いものを対象にしているとはいえ、伐倒には参加者全員がとても苦勞をしていました。

伐倒後は被害木上部のカシナガが生息しない箇所にはシイタケやナメコ、クリタケといったきのこのコマをみんなで打ち付け、来年以降の収穫を楽しみに待つこととしています。



コマを打ち込む穴あけ



参加者の皆さん

「土湯の森づくり」の活動はこれから本格的な冬を迎えるため、ひとまずお休みとなります。

来年以降も地域の人達と楽しみながら森林の再生に向けた取り組みを行っていきます。

ぜひ一緒に参加してみませんか!!

取組は「みどり環境税」の交付を受けて実施しています。